



## 平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年7月29日

上場会社名 株式会社ブルボン 上場取引所 東  
 コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 (TEL) 0257-23-2333  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月11日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	25,360	2.7	1,212	24.5	1,165	23.0	512	96.5
22年3月期第1四半期	24,681	1.9	974	30.3	947	26.1	260	△17.4

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	21	25	—	—
22年3月期第1四半期	13	44	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
23年3月期第1四半期	60,337	32,591	32,591	54.0	1,351	21		
22年3月期	62,401	32,356	32,356	51.9	1,341	38		

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 32,591百万円 22年3月期 32,356百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計					
	円	銭	円	銭	円	銭				
22年3月期	—		6	00	—		7	00	13	00
23年3月期	—									
23年3月期(予想)			6	50	—		6	50	13	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	48,600	3.0	1,200	9.5	1,100	9.9	180	9.1	7	46
通期	105,100	2.9	4,200	11.5	4,100	14.4	1,850	18.7	76	69

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「2.その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	27,700,000株	22年3月期	27,700,000株
23年3月期1Q	3,579,703株	22年3月期	3,578,470株
23年3月期1Q	24,120,914株	22年3月期1Q	19,399,563株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 連結財務諸表等 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年6月30日）におけるわが国経済は、国内外の経済対策や輸出拡大等により企業収益の改善、設備投資の下げ止まりなど緩やかな景気持ち直しの兆しが見られたものの、雇用環境や所得情勢などは依然として改善が見られず、欧州での金融危機など新たな不安要素も生まれ、不透明感を払拭できないまま景気回復は力強さを欠いた推移となりました。

菓子・飲料・食品業界は、安全・安心・高品質な商品が求められる一方で、景気低迷の長期化により、消費者の節約志向、低価格化志向が一層強まる状況が続きました。

当社グループは、食品製造企業として安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供に努めてまいりました。お客様の消費動向を常に捉えながら、多様化するニーズに機敏かつ柔軟に対応し、顧客満足度の高い商品開発やリニューアルの実施、サービスの向上に努めてまいりました。その結果、春先の天候不順の影響を受けた品目があったものの、ビスケット品目、スナック品目などが堅調に推移するとともに、デザート品目、チョコレート品目などが伸張し、売上高は前年同期を若干上回りました。また、一部原料の価格上昇などがあったものの、引き続き販売費の効率的な使用、商品の荷姿変更などによる運送費の削減、広告宣伝費の見直し、その他コストの削減活動などに努めたことにより、営業利益、経常利益および四半期純利益は前年同期を上回りました。

#### 営業品目別の概況

菓子は合計売上高が24,144百万円となり、前年同期比102.7%となりました。

- ビスケット品目は、実質価値を評価いただいたファミリーサイズ商品群、スティック商品群などが伸張いたしました。また、プチシリーズのビスケット商品、素材にこだわったビスケットシリーズ、ギフト商品などに好評をいただき前年同期並みの推移となりました。
- 豆菓子品目は、辛みを効かせた夏季向け商品の発売やリニューアルした「味ごのみ」が好評をいただき前年同期を上回りました。
- キャンデー品目は、花粉症対策商品のはなのど飴や販売ルート限定商品などに取り組みましたが、既存品の伸び悩みにより前年同期を下回りました。
- デザート品目は、前期後半にリニューアルした、くだものいっぱいゼリーシリーズに好評をいただくとともに、健康志向の高まりにより食後の0（ゼロ）kcalシリーズが大きく伸張し、全体でも前年同期を上回りました。
- 米菓品目は、陳列用の什器設置などによる積極的な営業活動により「チーズ柿種」が大きく伸張いたしました。また、前期末にリニューアルしたプチシリーズの米菓商品やプチプラスシリーズも好評をいただき前年同期並みの推移となりました。
- スナック品目は、品揃えの強化を図ったプチポテトシリーズが伸張するとともに、販売ルート限定商品への取り組みなどにより堅調な推移となりました。
- チョコレート品目は、アルフォートミニチョコレートシリーズ、ブランチュールミニチョコレートシリーズ、クラッシュルマンドシリーズを中心とした小箱チョコレートが大きく伸張するとともに、チョトスミニチョコレートやクラッシュルマンドボールなどのバッグサイズ商品群、袋チョコレート商品群も好評をいただき前年同期を上回りました。
- チューインガム品目は、4種類のフルーツ味が楽しめるアソートボトルガム「キュービィロップガムボトル」や3種類のベリー味を取り揃えた「アソート3（ベリー）」などを新たに発売するとともに、販売ルート限定商品にも取り組み、全体では前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の品目は合計売上高が1,216百万円となり前年同期比103.2%となりました。

- 飲料品目は、健康果実ボイセンベリーを使用した酔てきスタイルシリーズやボイセンベリースパークリングゼロなどが好評をいただいたものの、春先の天候不順の影響や競争激化の状況から前年同期を下回りました。
- 食品品目は、家庭内需要の高まり等により粉末ココア商品が継続した支持をいただき、前年同期を上回りました。
- 機能性食品品目は、カロリーの質に着目したスローシリーズにバランス栄養食品「スローバー チョコレートクッキー」「スローバー ボイセンベリークッキー」を新たに発売し、好評をいただきました。
- その他の品目では、通信販売事業は積極的な企画展開を行い伸張いたしました。自動販売機事業は、多様な商品を総合的に取り扱うプチモールの新たな展開と設置台数の増加に伴い伸張いたしました。また、酒類販売事業は、全国第一号の地ビールメーカーであるエチゴビール株式会社を前連結会計年度末に連結子会社化いたしました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいり、当第1四半期連結累計期間の売上高は25,360百万円（対前年同期比102.7%）、営業利益は1,212百万円（対前年同期比124.5%）、経常利益は1,165百万円（対前年同期比123.0%）、四半期純利益は512百万円（対前年同期比196.5%）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、60,337百万円となり、前連結会計年度末比2,064百万円の減少となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金が減少したことによるものです。負債は、27,746百万円となり、前連結会計年度末比2,299百万円の減少となりました。これは主に、法人税等の支払、賞与の支給および借入金の返済等の支払があったことによるものです。純資産は、32,591百万円となり、前連結会計年度末比235百万円増加し、自己資本比率は54.0%となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報)

当第1四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、868百万円の収入（前年同期1,123百万円の収入、対前年同期比77.3%）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,183百万円および減価償却費797百万円があったことと法人税等の支払額1,410百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは836百万円の支出（前年同期679百万円の支出、対前年同期比123.2%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出778百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは333百万円の支出（前年同期1,221百万円の支出、対前年同期比27.3%）となりました。これは主に、配当金の支払額156百万円および借入金の返済による支出132百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第1四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前第1四半期末に比べ3,126百万円増加し、8,558百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ299百万円減少となりました。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

・会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益は、それぞれ0百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は21百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は16百万円であります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期 連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,550	8,849
受取手形及び売掛金	9,967	12,444
有価証券	8	9
商品及び製品	3,387	3,144
仕掛品	459	443
原材料及び貯蔵品	2,761	2,390
その他	1,605	1,833
貸倒引当金	△141	△175
流動資産合計	26,599	28,939
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,562	8,236
機械装置及び運搬具(純額)	8,498	8,794
その他(純額)	7,864	7,513
有形固定資産合計	24,926	24,544
無形固定資産		
のれん	2,229	2,266
その他	515	530
無形固定資産合計	2,745	2,797
投資その他の資産		
その他	6,234	6,289
貸倒引当金	△167	△169
投資その他の資産合計	6,067	6,120
固定資産合計	33,738	33,462
資産合計	60,337	62,401

(単位：百万円)

	当第1四半期 連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,129	9,118
短期借入金	2,437	2,447
未払法人税等	219	1,330
賞与引当金	356	917
返品引当金	72	79
その他	6,850	7,419
流動負債合計	19,066	21,312
固定負債		
長期借入金	1,782	1,905
退職給付引当金	5,542	5,527
役員退職慰労引当金	162	162
資産除去債務	16	—
負ののれん	32	33
その他	1,143	1,105
固定負債合計	8,679	8,733
負債合計	27,746	30,045
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,386	7,386
利益剰余金	25,169	24,824
自己株式	△577	△575
株主資本合計	33,015	32,671
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△298	△180
為替換算調整勘定	△125	△134
評価・換算差額等合計	△424	△315
純資産合計	32,591	32,356
負債純資産合計	60,337	62,401

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	24,681	25,360
売上原価	14,467	14,621
売上総利益	10,214	10,739
販売費及び一般管理費	9,239	9,526
営業利益	974	1,212
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	32	32
負ののれん償却額	—	0
その他	25	26
営業外収益合計	65	63
営業外費用		
支払利息	11	7
減価償却費	22	13
貸倒引当金繰入額	24	6
為替差損	29	80
その他	2	3
営業外費用合計	91	110
経常利益	947	1,165
特別利益		
貸倒引当金戻入額	38	41
特別利益合計	38	41
特別損失		
固定資産処分損	31	—
減損損失	2	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	21
その他	—	0
特別損失合計	34	23
税金等調整前四半期純利益	951	1,183
法人税、住民税及び事業税	214	322
法人税等調整額	270	348
法人税等合計	484	671
少数株主損益調整前四半期純利益	—	512
少数株主利益	206	—
四半期純利益	260	512

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	951	1,183
減価償却費	805	797
のれん償却額	7	36
受取利息及び受取配当金	△39	△37
負ののれん償却額	—	△0
支払利息	11	7
為替差損益 (△は益)	—	81
固定資産処分損益 (△は益)	31	—
減損損失	2	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	21
売上債権の増減額 (△は増加)	2,350	2,478
たな卸資産の増減額 (△は増加)	75	△629
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,058	8
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△483	△560
その他	△525	△1,137
小計	2,128	2,251
利息及び配当金の受取額	34	32
利息の支払額	△11	△6
法人税等の支払額	△1,028	△1,410
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,123	868
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△666	△778
投資有価証券の取得による支出	△2	△45
その他	△9	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△679	△836
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△1,000	△10
長期借入金の返済による支出	△101	△122
配当金の支払額	△90	△156
その他	△29	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,221	△333
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△773	△299
現金及び現金同等物の期首残高	6,206	8,858
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,432	8,558

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

当社グループは食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類、飲料食品等の製造、販売を行なっております。当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、その記載を省略しております。

〔セグメント情報〕

当社グループの事業は、食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類及び飲料食品等の食料品の製造・販売並びにこれらの付随業務であり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。